

京都市市民参加推進条例で、「政策の形成、実施及び評価の一連の過程において、市政参加の機会を確保すよう努める」旨が定められています。

また、市民参加推進計画（第3期）では、「信頼や学びにつながる『市民と職員との対話』の推進」を掲げています。

これらを達成するため、5日間の実践的な研修を受けた職員を「市民協働ファシリテーター」に任命する制度を平成29年度に創設し、市民と協働した市政運営の更なる推進、市民との対話の場の更なる創出に取り組んでいます。

現在108名が任命され、本年度も新たに、約30名の任命を見込んでいます。

市民協働ファシリテーターに任命された職員は、各所属がワークショップを実施する際の企画や運営とともに、行政課題解決のために行政と市民をつなげる支援を行いますので、希望されるご所属・ご担当者様は、総合企画局総合政策室（市民協働推進担当：222-3178）までお気軽に御相談ください。

1 目的

市政に対する市民意見を対話により引き出し、市民意見を適切に反映した政策の形成、実施及び評価、並びに市民と協働した市政運営を行う職員を増やすことを目的に、市民協働ファシリテーターの養成及び任命を行う。

2 任命

ワークショップの企画やファシリテーション能力を養う研修を受講した職員を、市長が、市民協働ファシリテーターに任命する。

3 役割

市民協働ファシリテーターは、所属長の了解を得た上で、以下の内容を**本務として**担う。

- (1) 自身の所属において、政策の形成、実施及び評価の一連の過程において、積極的に市民との対話の場を創出すること。
- (2) 市民との対話の場の創出について、他所属から相談があった場合に、企画のアドバイスを行うとともに、必要に応じて運営をサポートすること。
- (3) 翌年度以降の市民協働ファシリテーター養成研修をサポートすること。

特に相談いただける内容

- ワークショップの目的に沿ったテーマ（問い）、デザインの設定
- 市民から意見を聴くだけでなく、市民にも主体的に動いてもらうための、ファシリテーション
- ワークショップ当日の実際の運営のポイント
- 所管課だけでは解決が難しい行政課題に対して、政策融合、市民協働の視点から課題を再設定すること など

4 市民協働ファシリテーターの「活躍実績」と「新たな展開」

＜令和２年度の活躍実績＞

(1) 市民との対話の場の企画・運営サポート（詳細は次ページ）

延べ７１名の市民協働ファシリテーターが各局区等の１０件の市民との対話の場の企画サポート、当日のファシリテーションに派遣、活躍しました。

(2) 「京都をつなげる３０人」への参加（Slow Innovation㈱主催）

京都に関わる企業やＮＰＯ、行政など様々なセクターから選ばれた３０人が集まり、企業の持つビジネスモデルの知識、ＮＰＯの持つアートや社会課題の専門知識、行政の持つ政策形成の知識を持ち寄り、対話を繰り返し、またセクターを超えた次世代ネットワークを構築し、社会課題の解決のモデルを作り出すことを目指すもの。令和２年度は、４名の職員（うち市民協働ファシリテーター２名）を派遣し、社会課題解決のプロジェクトの企画運営、実践を行いました。

(3) 市民協働ファシリテーター自主研究会の開催（人事課・市民協働推進担当）

市民協働による政策形成やまちづくりの推進のために、ファシリテーション技術、課題発見力、対人・グループコミュニケーション等について総合的に学ぶことを目的とし、令和元年度から、庁内の市民協働ファシリテーター全員による自主研究会を発足させ、令和２年度も引き続き任命期を超えた Web 会議勉強会等を開催しました。

(4) オンラインワークショップへの市民協働ファシリテーターの派遣

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面でのワークショップに代わってオンラインを用いたワークショップが増加したことを受けて、自主的にオンラインでのファシリテーション手法を学んだ市民協働ファシリテーター等を中心にオンラインを活用した新しい形でのワークショップで活躍しました。

＜令和３年度以降の新たな展開＞

(1) 地域課題解決に向けた更なる活躍

多様なセクター（まちづくり団体、企業人、行政職員、大学関係者等）のメンバーが京都の未来が良くなる取組や地域課題の解決に向けて、セクターを超えて価値を創造するための対話型のセッションである「クロスセクター京都」や「京都をつなげる３０人」、本市及び京都信用金庫の若手職員を対象とした、社会課題・地域課題の解決に向けた取組を行う合同研修「きょうからプロジェクト」等へ市民協働ファシリテーターが参加することによって、多様な主体との協働型の地域課題解決の方法を学んでいます。

(2) 市民協働ファシリテーターに任命された OB・OG の新たなスキルの習得

市民協働型のワークショップの運営、プロジェクトの推進を補助し、必要な手法や知識を所管課職員、研修受講職員等に伝えられる人材の育成を目指します。

○ 令和２年度市民協働ファシリテーター派遣実績

(別紙)

以下のとおり、延べ７１名の市民協働ファシリテーターが各局区等の１０件のワークショップ等の企画サポート、当日のファシリテーションに派遣され、活躍しました。
 <令和２年度派遣実績>※依頼順

件名	派遣先	企画 (人)	当日 (人)
「市民参加推進フォーラム」まちづくり部会、市政参加部会	総合企画局	—	3
市民参加フリートークセッション	総合企画局	—	2
X Cross Sector Kyoto (６回)	総合企画局	8	16
下京区長 Meetup	下京区役所	—	4
庁内・お困りごとバンク 重点支援プログラム (６回)	総合企画局	2	10
西京区総合庁舎整備に向けたワークショップ (２回)	文化市民局	—	8
京都市地域企業未来力会議	産業観光局	—	5
上京区まちづくり円卓会議	上京区役所	—	2
京都京北未来かがやきビジョン推進会議 第３回ワークショップ	京北出張所	—	2
第１６回京都から発信する都市政策研究交流大会における学生企画	総合企画局	5	4
計		15	56

(派遣先からいただいたコメント (抜粋))

直前の打ち合わせのみでも、各委員から意見が活発に出るよう当日のテーブルファシリをしっかりとしていただき、多くの意見を引き出してくれました。また、参加者として、これまでの業務経験を生かして、委員からの質問に的確にお答えいただけました。
オンラインイベントで、目が行き届かない部分のフォローをしてくれました。 市民との協働をファシリテーターが経験することができてよかったのではないかと思います。 担当するチームの報告書を書いてもらうことにより、チーム活動が事務局側により可視化されたのは良かったです。
所管課が抱える課題を深掘し、今後の方向性を確定させるところまで、的確なアドバイスをしつつ伴走してくれました。
各ファシリテーターの方々に１名ずつ、ワークショップに入っていたことにより、当日参加した学生同士の意見交換が活発に行われ、学生が主体的に参加している様子が見られました。また、企画を運営する側の学生も、ファシリテーターが打合せに参加していただいたことで、自発的に学生企画について取り組むようになりました。
本年度、継続的に開催しているワークショップのこれまでの議論の経過を踏まえた上で、今回のワークショップの参加者の意見の引き出し、参加者同士の意見交換を進めてくれました。
参加者それぞれの思いを引き出していただき、とても有意なワークショップになったと思います。